

黒べこの郷 粗飼料・和牛生産組合（川西町）

きのした ひろし

木下博史 さん

「農業による

自立をめざして」

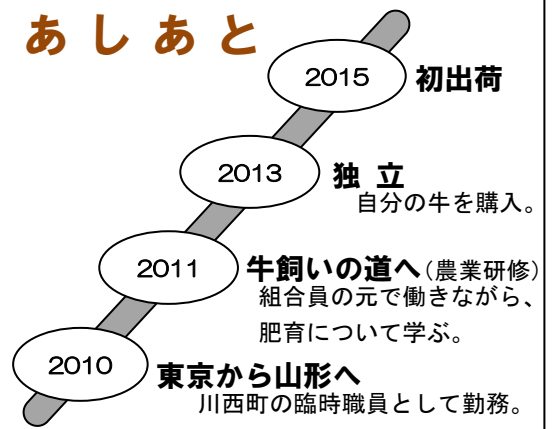


プロフィール

生年月日：1987年生（28歳）
 出身地：東京都
 2010年、川西町にイターンした木下博史さん。現在は、「黒べこの郷 粗飼料・和牛生産組合」に加入し、米沢牛の肥育を営んでいます。

木下さんのあしあと

現在 36 頭を飼育



●就農をしようと思ったきっかけを教えてください。

「2009年、リーマンショックの影響もあってか就職活動がとて大変でした。そこで、自分で独立してできる仕事を考えていたところ、農業はどうかと思うようになりました。」

●川西町を選んだ理由は何ですか。

「東京と簡単に行き来できる範囲で、移住先を検討していました。ちょうどその頃、川西町さんから農業研修の話をお勧めいただいたので、すべてが始まりました。」

●農業のビジョンは持っていたのですか。

「移住を考えていた頃には、既に牛を飼うことを決めていました。米作りよりも牛飼いに興味がありました。」

●なぜ牛飼いなのですか。

「和牛は、世界に誇れる農産物だと思ったからです。でも当時は、ホルスタインと黒毛和種の違いしか分からなかったんですけど・・・(笑)。」

●今年の十月に初出荷となりましたが、その時の気持ちは。

「不安で不安で仕方ありませんでした。」

●成果（競値）はとても良かったとお聞きしていますが。

「まだまだです。」

●牛飼いは楽しいですか。

「今は、楽しいというよりも不安が大きいです。命を預かる仕事ですし、出荷するまで面倒を見るといいう重い責任があります。」

●これからの目標は。

「肥育頭数を百頭まで増やしていくこと。また、若い農業後継者と一緒になって、耕畜連携を取り組んで、地域の農業発展に少しでも貢献できればと考えています。」

●最後に一言。

「正直、イターンの場合、新規就農はかなり大変です。特にインシャルコスト。機械や建物がなければ農業はできません。私の場合、この組合に受け入れてもらえたことは幸運でした。川西町、組合の関係各位には大変感謝しています！今後とも、どうぞよろしくお願いします。」